

SHIRAKOBATO

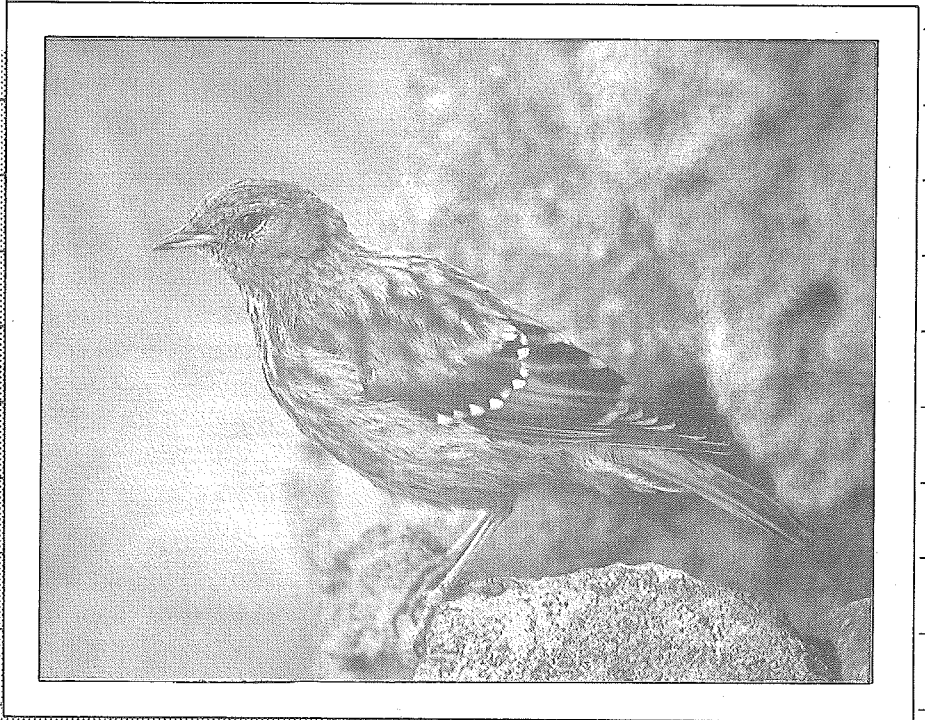
しらこぼと



1992. 6

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 97

日本野鳥の会 埼玉県支部

サハリン自然紀行 ーくなしり編ー

文と写真 平野 伸明

いわゆる北方領土と呼称される島々のうち、サハリン州に属するのは、クナシリ、シコタン、ハボマイ諸島で、いずれも北海道の最東端の知床半島や野付半島から数キロ～数十キロの近さにある。

この島々をめぐる歴史的、政治的経緯については、すでに様々なマスコミでとりあげられているので、いまさらいわずもがなだが、そこに住む人々の生活や自然はどうなのだろうか、という興味もあって一昨年(2001年)の11月と昨年の5月にクナシリを訪れてみた。

ペレストロイカの波に乗って、数年前にサハリンが開放されていらい、これらの島々への渡航の門戸も開かれつつはあるが、ビザなし渡航等一部の人々は往来できて、いまだいくつもの手続きを踏まねば簡単に渡れる島々ではない。

在日本ロシア政府機関では、通常これらの島々への渡航ビザは発行しないから、島々を管轄するサハリン州の関係各省に渡航の申請を行うのだが、ビザ取得までにはかなりの時間を要することを覚悟しなくてはならない。

しかもネサハリン州の管轄であるにもかかわらず、これらの島々には独立の管轄権やらが存在し、現地での行動もいちじるしく制限

される。なにかとやっかいな島々ではある。

* * *

5月、クナシリのメンデレーエフ空港に降り立った私たちは、さっそくクナシリの中心地ユジノクリスクを目指した。がたがた道をすすんでゆくと入江をはさんで右手に町が見えてくる。クナシリの人口はおよそ7,500人、そのうちのおよそ8割の人々がこの町に住んでいる。

私たちは入江沿いにある宿舎に泊まることにした。私たちの一行は、いつも私と行動を共にしてくれているピクトルとモトクロスラリー選手のセルゲイと私。今回、セルゲイにお願いしてロシア製のモトクロスバイクを2台空輸してもらっていた。このバイクで道なき道のクナシリの北端から南端までを走破してみよう、との試みである。

島であるクナシリの天候は変わりやすい。私たちは今の好天気を逃がすまいと、さっそく準備にとりかかった。

* * *

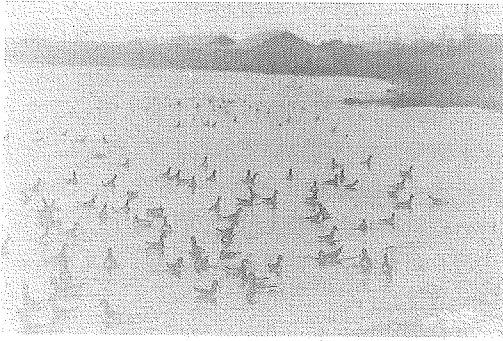
宿舎の主人サーシャの運転で、2台のバイクを積んだ6輪駆動トラックは、北へ向かった。北にはクナシリ一高い山、チャチャ岳がある。道はついにゆくてを阻み、ここからいよいよバイクで走行となった。セルゲイがいきおいよくエンジンをふかして泥んこ道を走り去る。私もままよと思い、一気に駆け抜けようとしたが、あえなく泥に車輪をとられて早くも転倒。先が思いやられる。

悪戦苦闘、やっとの思いで海岸線にでた。前方の雲の合間から美しいチャチャ岳が顔をのぞかせている。右手は海岸。左手は広々とした湿地帯。湿地帯の水辺には一羽のアオサギがいた。ハンノキにはノスリもとまっている。湿原を蛇行する川にはイトウやカワウソがいても不思議な環境ではない。

バイクを更に走らせ、いくつかの川を越えてやっとなチャチャ岳の麓までたどり着いた。浜辺に壊れた番やがあったので、今日はここ



バイクを降ろして北へ向かう



ゴロウニノでヒレアシシギの1群

に寝床をとることにする。セルゲイも私も疲れて、食事をとるとぐっすり寝てしまった。

翌朝、ハマナスにとまって囀るノゴマの声で目が覚めた。私たちは一日行程の予定でチャチャ岳の麓の原生林を歩いた。原生林は奥深く、ところどころに大きなヒグマの足跡や爪跡があり、私たちは注意しながら慎重に進んだ。エゾマツの大木では一心不乱に餌を捜すクマゲラを間近に見た。アカゲラやハシブトガラ、ゴジュウカラも見た。チャチャ岳の麓からその周辺にかけては、まだ一級の自然環境が残っているようだった。

もっとくわしく調査してみたかったが、時間が限られている。私たちはチャチャ岳を背に、今度は南端のゴロウニノの町を目指した。

* * *

クナシリ最南端の町ゴロウニノは、人口300人ほどの小さな町で、人々はコンブやカニなどを採って生計を立てている。町からはずれた海岸線にはいくつかの監視やぐらがあり、ここが国境であることを教えてくれる。

この一帯の湿地にロシア名「ヤボンスキー・ジュラプリー」・タンチョウがいるという。さっそく見てみたいと思い、サーシャのトラックでしばらく走ると遠浅の砂浜に一羽のタンチョウがいた。さらに奥の入江に一羽、合計2羽確認できた。今年はすでに近くの湿地で2番が繁殖、毎年子供を育てるとのことだった。

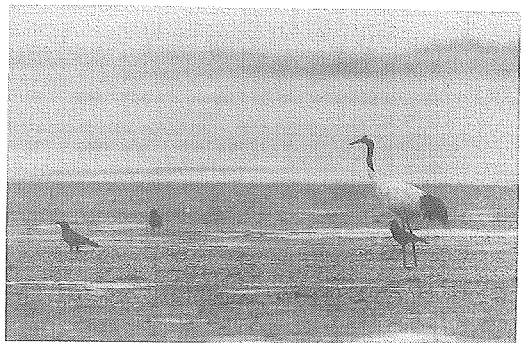
ゴロウニノ周辺は広い湿地がいくつもあり、タンチョウはもちろん、様々な鳥たちにとっても良好な生息環境だろう。他にシマセンニュウ、ノゴマ、ノビタキ、ホオアカ、ヒバリ、カワラヒワ、そしてアカエリヒレアシシギの小群などをみた。

* * *

クナシリの自然は、およそ北海道最東部とほぼ同じとみても差し支えない。ただ、火山と海流の影響を受け、天候は常に不安定である。森林はその多くが伐採や山火事後の遺症で貧弱である。河川が日本と比べれば手をつけられていない分、魚類は豊富だ。シマフクロウやヒグマも生息数は定かでないが、代を重ねていることだろう。

今年から新たに数年計画で北方4島を含む千島列島の自然調査グループと行動を共にすることになった。船でこれらの諸島をめぐり、鳥だけでなく自然環境全体の調査がおこなわれる。その調査の経緯については、また順次ご報告したい。

サハリンや千島列島全域は、直接北海道や本州の自然と密接につながっているといっても過言ではない。日本の自然を語る上でも、これらの地域の自然環境には関心が高まってゆくだろう。



ゴロウニノの入江でタンチョウを見た

1991年秋

埼玉県のタカの渡り

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

① はじめに

1991年9月の秋のタカの渡り調査は、22日と25日の予備調査、29日の本調査と3日間に亘り行われました。9月22日(日)は26℃にもなったむし暑い晴れた1日、9月29日は台風19号通過後を襲った高気圧が北に偏って張り出したため県北では晴、県南では晴から曇へと移った日でした。

② 高指山、天覧山での渡り

3日間の調査結果(表1)を見ると、天覧山の151羽が他の観察地点を圧していることがわかります。天覧山と高指山は、ほとんど同一の渡りルートを見ていることになりませんが、高指山では21羽しかカウントされませんでした。ルートは巾着田、高麗武蔵台団地、高麗峠の上空です。これは高指山では山頂付近の樹木のため死角となった高さ、天覧山(標高180m)より上で高指山(標高330m)よりは低い180mから330mの高さを29日に100羽以上のサシバが飛行した事が原因と思われる。当日、この近くは曇り勝ちで上昇

表1 1991年秋 タカの渡り調査結果

月/日	観察地点	観察羽数	観察時間	観察者	天気
9/22	鐘撞堂山(寄居町)	サシバ 2 チュウヒ 1 ハチクマ 2	9時~12時	小荷田行男 松井 昭吾	晴
	物見山(東松山市)	サシバ 8 クスリ 3 オオタカ 1	8時~12時	榎本 秀和 他5名	くもり のち晴
9/25	親ヶ野(皆野町)	サシバ 35 (含ツミハチクマ)	13時~14時	山口 輝雄	-
9/29	三峰山頂駅(大滝村)	サシバ 24	8時~8時30分	山岸 昭治	-
	金蔵神社岩山(神川町)	サシバ 13 ハヤブサ 2 ツ 2 ト 2 ミ 2	9時10分~13時30分	森本 園夫	晴
	鐘撞堂山(寄居町)	サシバ 34 ハチクマ 2 オオタカ 2 ト 1	7時30分~10時30分	小淵 健二 他4名	晴
	物見山(東松山市)	サシバ 29 ノスリ 4 ハヤブサ 4 オオタカ 1	9時~12時	石井 幸男 他6名	晴
	高指山(日高町)	サシバ 21 ツ 1 ノスリ 1 タカSP 4	7時20分~12時	小荷田行男 他13名	晴のちくもり
	天覧山(飯能市)	サシバ 151 ハチクマ 1 ハイタカ 2 オオタカ 1 オオタカ 3	7時50分~12時50分	海老原美夫 他15名	晴のちくもり

気流が十分発達せず低い高度を取らざるを得なかったためと思われます。

③ サシバの渡りの観察地

1986年からの当支部におけるタカの渡り調査で、単年以上のデータがある観察地について、本調査日及び当地における最大値のカウント数をサシバについて示します(表2)。これによると鐘撞堂山、物見山、高指山、天覧山は、微気候条件が整えば100羽以上のサシバの渡りがカウントできる所であると言えます。

④ おわりに

9月22日に8名、9月25日に1名、9月29日に44名と多数の会員の皆様の御協力を得たことを感謝致します。(執筆 小荷田 行男)

文献

- 小荷田行男 1986 1986年秋埼玉県のタカの渡り 第3回タカの渡りシンポジウム予稿集 日本野鳥の会兵庫支部 神戸
- 埼玉県支部研究部 1988 1987年秋埼玉県のタカの渡り しらこぼと No.46 P. 4
日本野鳥の会埼玉県支部 浦和
- 埼玉県支部研究部 1989 1988年秋埼玉県のタカの渡り しらこぼと No.58 P. 4
日本野鳥の会埼玉県支部 浦和
- 埼玉県支部研究部 1990 1989年秋埼玉県のタカの渡り しらこぼと No.70 P. 4
日本野鳥の会埼玉県支部 浦和
- 埼玉県支部研究部 1991 1990年秋埼玉県のタカの渡り しらこぼと No.81 P. 5
日本野鳥の会埼玉県支部 浦和

表2 タカの渡りの本調査日におけるサシバの数

年/日	観察地						
	天気	金蔵神社	鐘撞堂山	物見山	白金平	高指山	天覧山
1986/10/5	はれ	-	6 (9/23 31)	-	-	52	-
1987/10/4	快晴	-	4 (9/23 31)	28	(10/3 6)	149	-
1988/10/2	くもり	-	10 (10/1 150)	19	0	1	-
1989/10/1	はれ	-	25 (9/23 105)	100	14	79	150
1990/10/10	快晴	1	(9/23 19)	-	-	-	2
1991/9/29	はれのちくもり	13	34	29	-	21	151

(注1) 1990年のデータは本調査日が悪天候のため他の日のデータを示した。

(注2) カッコ内は当年度における最大値とその観察日を示す。

ビギナーの楽しみ

浦和市 渡 邊 光 行

バードウォッチングもビギナーにはベテランには無い喜びが有るようです。浦和では早い12月の初雪の翌日、第一フィールドの見沼に行くことにしました。

準備も楽しみのはじめです。前回の探鳥会で購入したウエストポーチを装着、一人でここにこしながら図鑑をおさめる。その上、今回は頂き物のスコープの初見参の日です。オーバーホール上がりとはいえ、激戦の傷跡もなかなか凛々しいなどと見とれたり、さわりまわしたりしている。

それでもスコープの抱え方にまごつきながら国昌寺付近に到着。遠方の落葉樹の中の鳥を発見。緊張して焦点を合わせばヒヨドリでした。しかしこのヒヨドリはなかなか美しいと見入ったりしている。ビギナーは強いのです。

モズやホオジロを見ながら少し大きくなった苗木林へたどり着く。林間でさかんに落葉をつついてはいる大きめの鳥を見つける。食事に夢中のように近くでスコープをかまえても気が付かない。図鑑で見合わせてもツグミに間違いはない。野鳥はとても手入れ好きで美しいがこの鳥はヒヨドリよりはさらに美しい。じっくり観察していると飼い犬が林間を走り去り、あわてた鳥達が入替わってしまう。藪から高木へ飛び出した鳥を見ればムクドリである。この鳥はムクムクしているからではなくムクノキの実を食べるからだそう。ヒヨドリはたくましさ有るように鳥達にも個性があつておもしろい。ともあれ中型3基本種をマスターしてしまっていたのです。私には適性がある！海老原さんにも勝てる！と確信をもってしまふのもビギナーの特権のようです。

昨日のなごり雪の寒さにメモを取り出し確認した鳥達をつづれば、少ない。こんなはずではない。私には適性が有るのだから。草藪で鳴いていたのはウグイスだし、ツバキの中の鳥はメジロだった。あのカラスはハシブト

だし、芝川へ行けば3・4種は増える。そう言えばあのホオジロは間違いなくカシラダカだった。最後にむりやり数を増したがるのもベテランの忘れかけている所かもしれません。

('91. 12. 30)

雲取山でルリビタキ

森 義雄 (深谷市)

4月に入会した新人です。5月の連休に中年夫婦の足腰健在確認のため雲取山に挑戦しました。朝の山頂は晴わたり雪化粧の富士山、南アルプスがバッチリ姿を現わし素敵でした。その上きれいなルリビタキを初めて見、楽しい山行でした。

双眼鏡でとらえた時は、初めて見るので何の鳥か判らず野外観察ハンドブックをめくりどうやらルリビタキのゝらしいと、いささか自信のない結論を夫婦で出しました。近くを見渡すと同じハンドブックを持ち望遠鏡で観察中の方がおりましたので尋ねて見たところ、やはりルリビタキのゝとの事で我々の判断にいささか自信を取り戻しました。また♀もその方が望遠鏡でのぞかせてくれました。

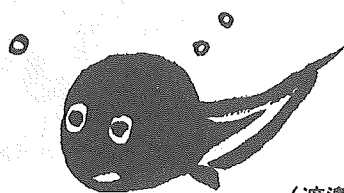
山と鳥、そして自分達の健康に感激しましたので筆をとりました。

埼玉県北部にシラコバト

中島 章二 (熊谷市)

先日、近所の方から変わった山ばとが居るといわれて早速行って見ると、なんとそれは、シラコバトでした。一時間ぐらい眺めていると、5羽確認できました。県東部もこの頃は開発が進んでシラコバトも住みずらくなってきたことを痛切に感じました。今日も行ってみると3羽居ました。このまま住みついてくれることを祈っています。

熊谷市北部の尾敷林にて '92. 5. 8.



(渡邊光行)



野鳥情報

アオサギ ◇3月6日、川越市の伊佐沼で2羽(伊藤芳晴)。

マガン ◇2月16日、浦和市秋ヶ瀬で1羽(小谷野勝栄)。

オオタカ ◇2月27日、浦和市下大久保の鴨川排水機場で1羽(渡辺喜八郎)。◇2月27日、寄居町玉淀で1羽(井上幹男)。

ツミ ◇3月8日、寄居町の鐘撞堂山で1羽上空を舞い、羽をつぼめて急降下(浅見良太)。

ハイタカ ◇3月8日、寄居町の鐘撞堂山で1羽。上空を旋回していた(浅見良太)。

ノスリ ◇2月27日、寄居町玉淀で1羽(井上幹男)。◇3月8日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(浅見良太)。

ウズラ ◇2月29日、浦和市大間木で1羽(福井 亘)。

クイナ ◇3月4日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(福井 亘)。

バン ◇2月22日、大宮市日進1丁目の鴨川で2羽。昨年10月末以来ひさびさに戻ってきました(浅見健一)。

コチドリ ◇2月11日、幸手市木立の中川で4羽(秋間利夫)。

シロチドリ ◇2月11日、幸手市木立の中川で1羽(秋間利夫)。

オオハシシギ ◇2月11日、幸手市木立の中川で1羽。21日にも見られた(秋間利夫)。

ミツユビカモメ ◇3月17日、本庄市の阪東

大橋下流で1羽(井上幹男)。

シラコバト ◇3月2日、JR新三郷駅改札口付近で営巢中(山部直喜)。

コミミズク ◇3月2日、浦和市秋ヶ瀬で1羽。カラスに追われる(二村英克)。◇3月4日、戸田市道満で1羽。歩いていた足元から飛び立つ(二村英克)。

ヒメアマツバメ ◇2月22日、坂戸市の城山公園で1羽。南斜面に沿って往復して空中採餌(山上善郎)。

ヤマセミ ◇3月23日、秩父湖で♂♀各1羽。つがいではるか上空でじゃれあうように飛びまわる(井上幹男)。

アリスイ ◇3月4日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(福井 亘)。

アカゲラ ◇2月27日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(渡辺喜八郎)。

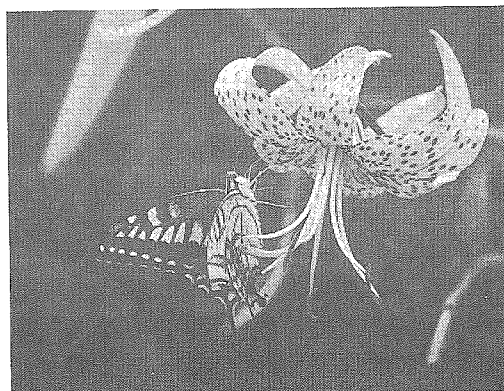
ツバメ(初認) ◇3月6日、志木市の柳瀬川、高橋～栄橋間で1羽。北東の強風に吹かれて下流の方に飛んで行きました(中司隆由)。◇3月12日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。カワセミ♂♀のそばを低空で通過する(町田好一郎)。◇3月14日、鴻巣市大間1丁目で2羽。鳴きながら、もつれあうように飛びまわる(榎本秀和)。

◇3月15日、志木市の新河岸川で1羽(林 弥生子)。◇3月17日、深谷市の上武大橋下流で3羽(井上幹男)。◇3月20日、大井町西鶴ヶ岡で1羽(林 弥生子)。◇3月21日、浦和市の白幡沼で1羽(海老原美夫)。

◇3月22日、浦和市大崎の見沼ヘルシーランド裏で1羽(伊藤芳晴)。◇3月25日、吹上町の大声小学校前の田んぼを飛ぶ(新井郁代)。◇3月25日、浦和市南浦和で1羽(藤野富代)。◇3月26日、JR北朝霞駅前広場で2羽(福井恒人)。◇3月28日、浦和市上木崎で2羽(福井恒人)。◇3月29日、狭山市の入間川、豊水橋付近で1羽(石井幸男)。◇3月30日、大宮市東大宮5丁目で1羽(藤原真理)。

イワツバメ ◇3月22日、大宮市の見沼グリーンセンターで3羽(藤原寛治・真理)。

◇3月22日、富士見市の新河岸川、木染橋～岡坂橋間で7羽(中司隆由)。◇3月29



キアゲハ(林 滋)

日、狭山市の入間川、豊水橋付近で1羽
(石井幸男)。

ビンズイ ◇3月11日、大宮市日進1丁目で
1羽(森本國夫)。

ルリビタキ ◇2月17日、長瀨町の宝登山で
♂1羽(井上幹男)。◇3月23日、秩父湖
でぐぜる(井上幹男)。

トラツグミ ◇2月27日、長瀨町の宝登山で
1羽、落葉をかきわけ食事中(井上幹男)。
◇2月29日、熊谷市西別府の自宅の柿の木
で鳴いていた(諏訪隆久・夕香子)。◇2
月29日、新座市の平林寺の梅林の中で1羽
(二村英克)。◇2月中旬頃から、鴻巣市
糖田の水川神社付近で朝5時頃より8時頃
まで「ヒーヒー」と鳴き声(長島岩雄)。

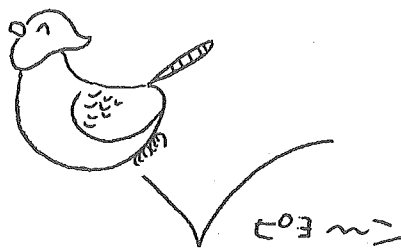
アカハラ ◇3月9日、志木市の柳瀬川、日
本レダリー北側の堤防上で♂1羽。ブルドー
ザーが草の道をひっかきまわした所で甲虫
の幼虫をとって食べていた(二村英克)。

シロハラ ◇3月6日、大宮市日進1丁目で
1羽(森本國夫)。◇3月8日、寄居町の
鐘撞堂山で♂1羽。林の入り口でじっとし
ていた(浅見良太)。

ウグイス(初鳴き) ◇2月27日、大宮市堀
崎町でさえずる(藤原真理)。◇2月29日、
熊谷市月見町で暖かさに誘われてさえずっ
ていた。まだまだへたくそだな～(菱沼一
充)。◇3月6日、川越市鴨田の雑木林の
中で(中司隆由)。◇3月8日、寄居町の
鐘撞堂山の大正池で上手に一声「ホーホケ
キョ」(浅見良太)。◇3月11日、志木市
の敷島神社の梅林で(二村英克)。

エナガ ◇3月8日、寄居町の鐘撞堂山で2
羽。大きめの羽をくわえていた。巣作りで
も始めたのでしょうか(浅見良太)。

カシラダカ ◇3月20日、秩父市の羊山公園



(高橋美保子)

での探鳥会終了後、ひとつの小さな谷が、
カシラダカたちのさえずりでうまってしまっ
た(海老原美夫)。

アオジ ◇3月4日、浦和市秋ヶ瀬のピクニッ
クの森でぐぜり(福井 亘)。

ミヤマホオジロ ◇2月27日、長瀨町の宝登
山で6羽(井上幹男)。◇3月4日、浦和
市秋ヶ瀬の子供の森で♂1羽(福井 亘)。

アトリ ◇2月27日、長瀨町の宝登山で群れ
を見る(井上幹男)。

マヒワ ◇3月23日、三峰山で100羽以上
(井上幹男)。

ベニマシコ ◇2月27日、寄居町玉淀で♂♀
各1羽(井上幹男)。◇3月8日、寄居町
の鐘撞堂山の林道終点付近の草原で♂1羽
(浅見良太)。

ウソ ◇2月29日、秩父市の羊山公園で♂4
羽(山岸昭治)。

イカル ◇3月13日、新座市の平林寺で1羽
(渡辺喜八郎)。

ハシボソガラス ◇11月15日、滑川町の森林
公園でくちばしの黄色い個体1羽。くちば
しのもと1/4位は黒で先は透明感のあるレモ
ンイエロー(山上善郎)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト1991 入選作

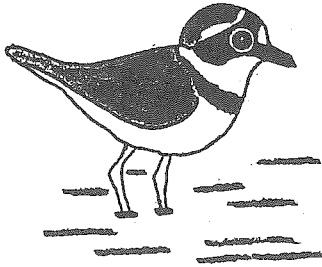
イワヒバリ(イワヒバリ科)

夏は高山帯の岩場で生活するため、夏山登
山をやる方なら一度は見たことがある鳥では
ないだろうか。近よってもたいして人を恐れ
ず、ゆっくりたっぷり付き合ってくれるいい
ヤツだ。冬は比較的標高の低いところへ降り

てくるので、埼玉県内でも記録があるが、い
ずれにしても我々平地に住むバードウォッチ
ャーにとっては、文字通りの「高嶺」のトリ
である。

榎本秀和(鴻巣市)

行事あんない



(佐藤方博)

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月7日(日)

集合：午前9時20分 北本観察公園駐車場

交通：JR高崎線北本駅西口よりリーダーの指示に従ってタクシーに分乗して下さい(午前8時45分ごろから)。

担当：岡安征也、榎本秀和、内藤義雄、吉原俊雄、関口善孝

見どころ：青空をバックにサシバの雄姿。飛びかうカッコウ。若葉の森ではカラの仲間がかくれんぼ。草原ではジャズを唄うオオヨシキリ、その舌にもキラリ、初夏の光。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月14日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：06発または寄居9：03発に乗車

担当：諏訪隆久、森本國夫、菱沼一充、関口善孝、菱沼洋子

見どころ：大麻生は今、ベビーブーム。ツバメやスズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、カイツブリなど、新しい生命の誕生に沸く大麻生。案内役のリーダーも、これまた新米のパパ。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：6月21日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、田口浩司、笠原伸子、岡部泰三

見どころ：水辺が楽しい季節です。これから夏にかけて、鳥が少なくなりますが、水辺は例外。イソシギやコチドリ、セキレイ類、お待ちかねのカルガモ・ファミリーと、相変わらずのにぎやかさ。

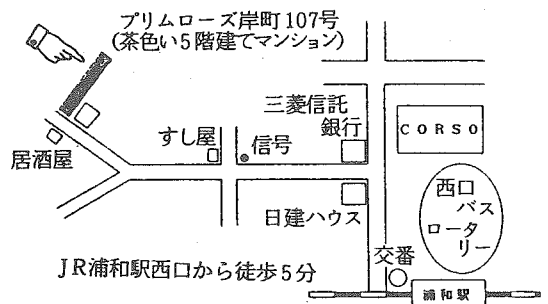
『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月27日(土)午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局(地図参照)

案内：野鳥の会に入ったからには、探鳥会以外の行事にもドンドン参加しなきゃ損！なんてうまいこと言って、実は支部のお手伝いをお願いしたいのですが……でも、鳥仲間もできるし、いろんな情報もキャッチできるし、やっぱり、やらなきゃ損ですよ。

事務局は ここです！



野鳥写真クラブ定例会

とき：6月27日（土）午後2時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：最近、ビデオの迫力映像に圧されがちな写真ですが、どなたか「動けばいいってもんじゃないヨ！」とばかりに、傑作を発表してくれませんか。もちろん、自称“傑作”でOKです。

平成4年度（第8回）埼玉県支部総会

期日：6月28日（日）
（詳しくは12ページをご覧ください）

栃木県・奥日光探鳥会（要予約）

期日：7月4日（土）
集合：午前6時45分 大宮駅東武線改札口
車の場合は午前10時15分 現地（赤沼駐車場）
担当：中島康夫、松井昭吾、福井恒人
見どころ：湿原の植物と鳥。草原のスター、ノビタキ、ホオアカは声も姿も惜しみなく披露してくれます。ワタスゲやモウセンゴケなど湿原の植物にも目をむけてみましょう。

上尾市・八枝神社探鳥会（夕方）

期日：7月5日（日）
集合：午後5時30分 西上尾第2団地バスセンター（その後、現地まで歩きます。約20分）
交通：JR高崎線上尾駅西口東武バス5番乗場（第一勧銀前）より17:04, 17:11のバスに乗車
担当：乗田実
見どころ：アオバズクを聴く夕べ。耳をすませていると、夕闇の奥からホッホー、ホッホー……時には、まる子ちゃん・サザエさんをお休みして、静寂を味わってみませんか。
注意：蚊が気になる方は、虫よけや虫さされの薬をお持ち下さい。

- 7月12日（日） 大麻生定例探鳥会
- 7月19日（日） 三室地区定例探鳥会
- 7月26日（日） 入間川定例探鳥会

ごめんなさいコーナー

先月号の行事案内のページにいくつかミスがありました

- * 5月10日・秋ヶ瀬探鳥会、深作川探鳥会の集合時間が「野鳥」誌5月号、支部ホットラインのページに掲載されていたものと違っていました。「野鳥」vs「しらこぼと」どちらを信じるべきか迷ってしまった方、ごめんなさい。
- * 5月26日・入間川探鳥会。西武線本川越発の時刻が1時間早くなっていました。正しくは8時42分です。無駄な早起きをしたしまった川越方面の皆さん、ごめんなさい。
- * 5月3日・菅生沼探鳥会。リーダー・中島康夫の電話番号、正しくは
です。なお、菅生沼探鳥会に車でおいでになる場合、今後は事前連絡は要りません。集合場所のわからない方のみ、中島までご連絡下さい。



【第1R】コヨシキリ盛んにさえずるも、アオジ黙殺。コヨシキリやがて去り、アオジの勝ち。
【インターバル】アオジ、勝ちときをさえずる。
【第2R】コヨシキリ復活。再び豊かな声量でさえずる。アオジ黙殺するも、こらえきれなくなったか、ついに去り、コヨシキリの逆転勝利。

於 能取岬
'87. 6. 6
(加島弘敏)

行事報告



2月9日(日) 熊谷市 大麻生

人 61人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ コハクチョウ マガモ トビ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ コジュケイ イカルチドリ クサシギ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 明戸堰でコハクチョウが乱舞しているという情報のもと、久しぶりに明戸堰まで歩いた。途中の森ではそこそこで小鳥たちが、上空を見上げるとノスリが舞う。目的地の明戸堰では、約束どおり20羽以上のコハクチョウが僕たちを楽しませてくれた。(諏訪隆久)

2月11日(火、休) 上尾市 丸山公園

人 25人 天気 晴 鳥 カイツブリ カワウ コサギ アオサギ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 毎度おなじみ、恒例の早朝探鳥会。北風が強かったけれど、元気一杯スタート。カワウ10羽の編隊を上空に見てから、コゲラがセッセと木をつつく様子を観察し、池ではカワセミを全員で見られた。土手の上からは、くっきりとした富士山が。荒川の向う岸には、「パーン、パーン」という猟銃の音と、猟犬をつれたハンターの姿も。(いやですね。) 雑木林では、アカゲラの姿も。シメは何度も

見られたし、アオサギ2羽も出たし、ちょっと寒かったけれど、早朝はやっぱり気持ちがいい。ウソやタマシギも見ることができるという丸山公園は良い所。(吉原俊雄)

2月15日(土) 群馬県 裏妙義

人 26人 天気 晴 鳥 オシドリ マガモ カルガモ トビ オオタカ ノスリ イヌワシ チョウゲンボウ キジバト コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ コガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) お弁当を食べながらイヌワシ・ショー見物、というのがこれまでの裏妙義探鳥会のパターンだったが、最近はショータイムが午前中になったとのこと。今年はダメかなと半ばあきらめていた。が、探鳥会を始めて間もなく、まだ山に入らないうちに、上空を舞うイヌワシを発見。午前中のショーを楽しむことができた。おまけにこの日は“昼の部”まであり、例年どおり国民宿舎でその勇姿をじっくり。イヌワシを見ながら食べる“峠の釜めし”は格別の味。期待していたウソ、マヒワなどは全く見られなかった。妙義湖のオシドリ、過去2回の探鳥会ではチラホラだったが、今年は多数。岸辺に、湖面に、そして木の枝に、花が咲いたようだった。(小林みどり)

2月16日(日) 本庄市 阪東大橋

人 33人 天気 晴 鳥 カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ カワアイサ トビ オオタカ ノスリ チョウ

ゲンボウ タゲリ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ セッカ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 行事案内の「防寒対策」が誇大広告になりかねないポカポカ陽気。スタートしてすぐカワウの連続フライト。一波、二波、三波と青空をバックにした数百羽のシルエットに大歓声。河原の木の枝で休むノスリも全員が確認。カモ達も皆待っていてくれ、オオタカのアタックで右往左往するところまで見せてくれた。カワセミは一寸お出かけだったが、締めくくりでカワアイサとタゲリが皆を楽しませてくれた。突風と野焼の煙に追われて土手の反対側まで逃げる一幕まであり、冬の阪東大橋らしい探鳥会だった。初参加の児玉町中央公民館のチビッコ達も、元気に鳥達との出会いを楽しんだようだ。(町田好一郎)

2月16日(日) 滑川町 森林公園

人 48人 天気 晴 鳥 カイツブリ マガモ カルガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ オオタカ コジュケイ キジバト コゲラ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ハシブトガラス (30種) 吹く風がちっとも冷たく感じられず、2月だとは思えないような日だった。鳥たちも陽気に誘われてどこかに遊びに行ってしまったのか、いつもよりひっそりとしていた。でも、シロハラは全員しっかり見られたし、地面から顔を出した福寿草の花も楽しめた。(森本國夫)

2月16日(日) 浦和市 三室地区

人 58人 天気 晴 鳥 カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ コジュケイ キジ タゲリ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ シラコバト キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ

ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 浦和市大牧のカブスカウトの可愛いぼうやお嬢さんが、親御さんたちと17名特別参加して、賑やかな探鳥会。コースは別でしたが、とても楽しい思いをしました。また、郷土博物館には、与野歩こう会の人たちがやってきて販売物を買ってくれました。この日はいろんな人たちが集まり素晴らしい一日でした。(楠見邦博)

2月22日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

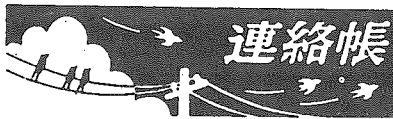
作業を楽しんだ人 荒木恒夫、伊藤宏、海老原教子、大竹忍、楠見文子、墨江光子、高松格、鳥居英則、鳥居陽子、古沢厚良、増尾隆、渡辺喜八郎 (12人)

2月22日(土) 写真クラブ定例会

参加者 15人
作品発表 スライドなし ビデオ3人

3月1日(日) 荒川村 日野溪谷

人 46人 天気 曇 鳥 コジュケイ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ ジョウビタキ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウガラ メジロ ホオジロ カシラダカ アトリ カワラヒワ マヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 曇ってはいても穏やかな暖かい一日。歩いているうちに暑くなって、次々に上着を脱ぎ始め、手に持ったり腰に巻いたり、異様な集団になり果てた。白く可憐なセツブンソウ(リーダーによく似合うと、もっばらの評判)、湿地にうづくまるザゼンソウ(民宿のオジサンに突然入場料を請求されてしまった)、カラの混群、アオゲラ、アカゲラ、マヒワの群れなども見て、ミソサザイのさえずりを聞いて、イノシシの足跡やムササビの巣穴まで見て、秩父の早春をたっぷりと楽しんだ。今年は大当たり!! (海老原美夫)



総会のお知らせ

支部の活動を振り返り、新たな1年の方針を議論する大切な総会です。支部会員であればどなたでも参加できます。どうぞお集まりください。

[日時] 平成4年6月28日(日)
午後1時 受付開始
午後1時30分～4時 総会

[場所] 浦和市高砂3-1 埼玉会館
(浦和駅西口から県庁方向に進み、下り坂の右側。徒歩約5分)
5階5B集会室

[議題] 平成3年度事業報告と決算
平成4年度事業計画と予算
平成4年度役員

[来賓] 本部普及部編集室主任 京極徹

バードソン1992

今年はバードウォッチング・ウィーク行事の一環として、11月1日に開催。昨年までの研究基金のための募金目的が予定年数を経過したので、今年からは、野鳥の会の重点目標「湿原の保護」に対応して、オオセッカやオオシゴイなど野鳥の生息地として重要な、青森県の仏沼湿原とその周辺の土地買い上げの活動を続けている、青森県支部のオオセッカ村運動を支援する募金です。

当支部からはしばらく公式チームが参加していません。私がやってやろうではないかという方、どうぞ手を上げてください。

会員の展覧会

本誌上などの写真でおなじみの登坂久雄幹事やバードウィークイベントの野鳥画展にご協力いただいた画家の吉田博さんら、鳥仲間4人が今年も写真展を開催します。

第3回 鳥写4人展

8月13日(木)～16日(日)

浅草公会堂

蓮田市環境フォーラム

黒浜沼周辺の自然を大切に作る会主催で、「豊かなくらしと環境保全」をテーマに、パネルディスカッションなどを開催。当支部からは中島康夫普及部長がパネラーとして参加する予定です。

6月7日(日) 午後1時30分～4時30分

蓮田市役所 会議室(303～305)

6月の土曜日当番(2時～6時)

6日 中島康夫 楠見邦博(普及部会議)

13日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)

20日 伊藤芳晴 内藤義雄

27日 袋づめの会(1時から)

ご寄付ありがとうございました

諸徳寺四郎 5,000円、八坂信夫4,000円。

(50音順、敬称略)

会員数は

5月1日現在 1,909人です

活動報告

4月19日 役員会議(司会・福井恒人、7～9月探鳥会予定、総会、その他)。

4月25日 バードウィークイベント野鳥画展につきアズ熊谷とアイリスメガネに協力依頼と打ち合わせ(事務局)。

4月29日 野鳥記録委員会。



忙しさにかまけて前回の編集会議をまったく忘れてしまった。次回は心を入れ替えて…と決心したのもつかの間、やっぱり遅刻。

皆さんのご機嫌をとるべく酒屋に走ると、本日閉店。言い訳をしていると、

「自動販売機がありましたよね。」

「あそこは千円札も使えますよ。」

冷たい視線と言葉のトゲに、向かいの焼き鳥屋で再度ご機嫌を伺う編集長です。

(山部直喜)

『しらこぼと』1992年6月号(第97号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130
印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)